

# 福島高専の情報基礎科目でのタッチタイピングの習得における 学生の動機分析について

布施雅彦<sup>\*1</sup>

Email: mfuse@fukushima-nct.ac.jp

\*1: 福島工業高等専門学校 一般教科情報

◎Key Words 情報教育, コンピュータリテラシー, タッチタイピング, タイピングが苦手な大学生

## 1. はじめに

大学生において、スマートフォンの普及などもあり、PC 離れや、タイピング能力不足が著しとの報告も聞かれる<sup>(1)</sup>。今年の1月の神戸新聞の WEB 記事にも、『就活、卒論の“敵”はPCスマホ世代「ローマ字変換に頭使う」<sup>(2)</sup>』という見出しで、神戸市内の大学生がタイピングで困っている様子取材している。この数十年コンピュータが普及し誰もが利用する時代になったが、高等教育機関を卒業すると学生の誰もが、PC の操作の基本であるタッチタイピングをマスターし、すらすら入力できているということになっていない。さらに近年悪くなっているという話も聞こえてくる。

福島高専では、基礎科目の授業で10年以上前から、タッチタイピングを取り入れ、習得に力を注いでいる。学生の練習には、e-Typing 社のシステムを採用し、工夫しながら取り組み、1年の終了時には、概ね全員がタッチタイピングをマスター（スコア209）し進級していく。今回は、その取り組みの現状と、学生が取り組むきっかけになった動機を分析、調査してみた。今後の指導に役立てることができることがらをまとめ、報告する。

## 2. タイピングの現状

### 2.1 入学時

タッチタイピングに取り組むのは中学校を卒業したばかりの新入生約200名（15～16歳）である。入学時にスマートフォンを購入するのが大多数の為、スマートフォンの影響はあまり大きくないと推測される。

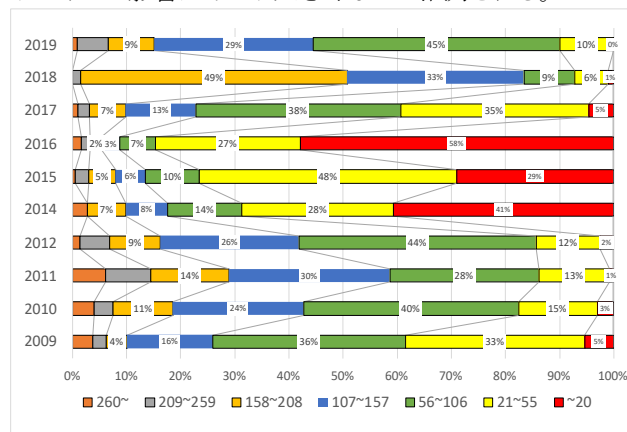


図1 入学時のタイピングスコアの割合と変遷

図1は、入学時に実施したe-Typingのシステムを利用した時の変遷である。2009～2012年、2014～2016年

と2017～2019では傾向が異なり、原因を突き止めるには至らない。但し、2018年度は、過去にないぐらい著しく高い結果であった。

### 2.2 2019年の入学生と大学生の比較

図2は、2019年度入学生の4月時のeタイピングスコアである。他と比較するデータが少ないが、児島(2014)<sup>(3)</sup>が大学の新生の新生1341名に調査したグラフと比較してもあまり差がなく、母集団が小さいけれども高専の新生のほうが若干よい、中卒も高卒も差が少ないことがわかる。

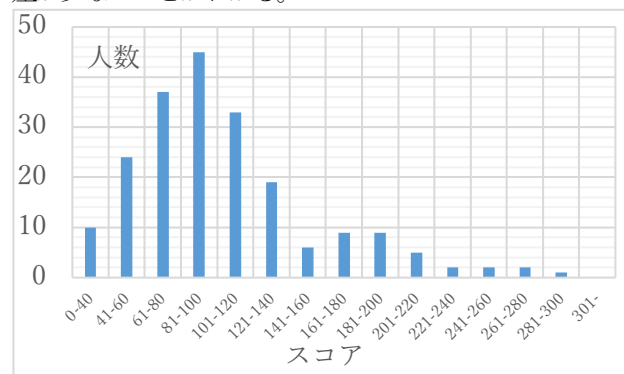


図2 2019年の入学時のeタイピングスコア

### 2.3 2019年の入学時の試験方法の比較

図3は、文部科学省がH27年12月～H28年3月に情報活用能力について、調査した報告書のグラフである<sup>(4)</sup>。文部科学省では、「児童生徒に身に付けさせたい情報活用能力」として、小学校では、「10分間に200文字程度の文字が入力できる」、中学校では、「10分間に300文字程度の文章が正確に入力・編集できる」と目標にしているが、大半が達成できていないことがわかる。

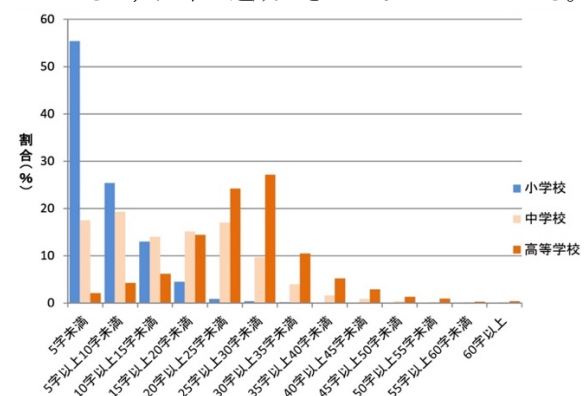


図3 1分間あたりの入力文字数の分布<sup>(4)</sup>

また、図4は、日本語ワープロ検定試験2級の問題

を、図2の同日に高専の新入生に実施した結果である。母集団や対象・問題が異なるのでそのまま比較はできないが、文科省の調査の高校生と同程度と感じである。

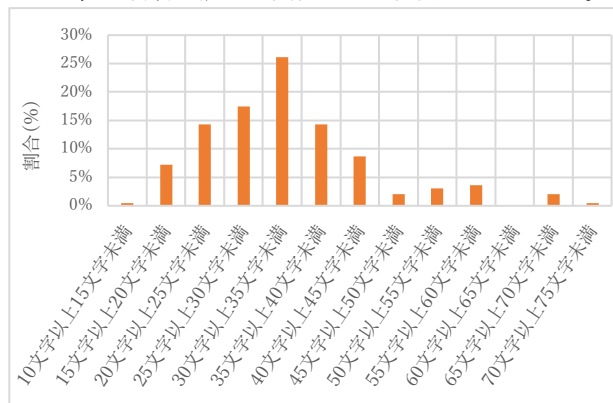


図4 高専新入生の1分間あたりの入力文字数の分布

### 3. タイピングを取り組む動機

#### 3.1 目標達成割合と時期

布施 (2017) は、e-Typing のシステムで 350-500 回程度練習を実施すると、合格ラインのスコア 209 に達することを報告している<sup>(5)</sup>。図5は、布施 (2019) では、2018 年度の学生のタイピングスコアの推移で、最終的に 99%の学生が目標に達しているが、その取り組み状況や時期は、年間通して、学校行事などもあり、様々な要因で学生により異なっていることも報告している<sup>(6)</sup>。可能な限り、学ぶ・取り組む動機・仕組みを分析し、早くモチベーションを高め、やる気を引き出したいと考えている。

#### 3.2 タッチタイピングに取り組む動機

今回は、2018 年2月の最後の授業時にタイピングについてアンケートを実施し、学生の内面からの取り組み状況を調査した。次のような事柄がきっかけでとり組み始めたことがわかった。

- 上手になりたい・成長する自分が嬉しくて
- 友人との比較・負けたくない・ランキングをみて
- 補習 (補習で火がついた。居残りが嫌だ。)
- 毎月のテストの点数が悪かったから
- 先生からのノルマ (スコアと練習回数の目標)
- 科目の点数 (留年したくない)
- 早めに目標をクリアすると楽

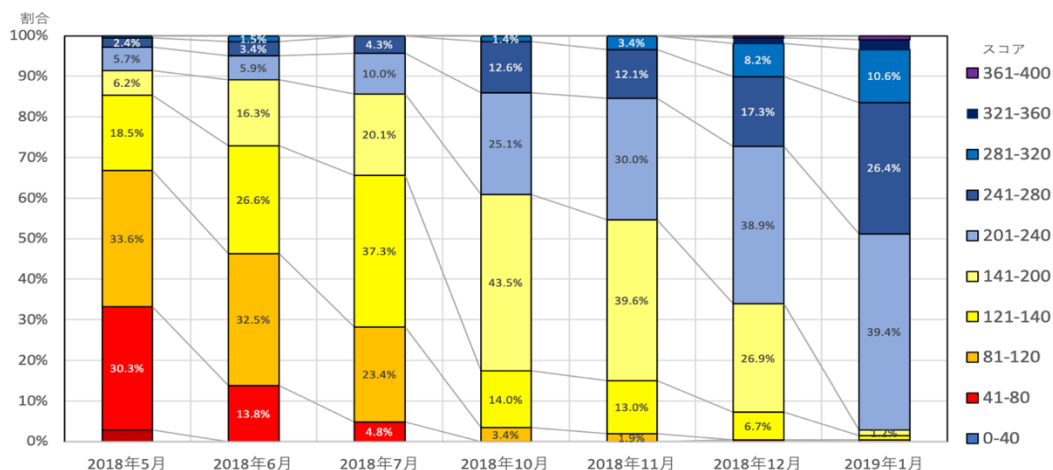


図5 2018年度の学生の確認テストにおけるe-Typing contestのタイピングスコアの推移<sup>(6)</sup>

- パソコンを買ってもらった
- 兄弟・保護者から
- 指のリハビリ (例外)

### 4. まとめ

タイピングの感想を集めるのは、過去に数回あったが、まとめるのは初めてで、そして、活用もできていなかった。考えた以上に、教育目標のコツコツ取り組む大切さを理解したり、目標を達成する達成感を味わったりという部分で、有効であったことがわかった。そして、学習におけるライバルの存在は大きく、「負けたくない」「あいつより上手になりたい」という部分はこの世代の学生には大きな要因であることもわかった。早期に計画的に練習できない学生などへの補習も、動機付けに有効であることがわかった。それがまた夏休みの取り組みを変化させていることがわかる。

タイピングの教育目標として e タイピングのスコア 209 達成という結果が同じでも、可能な範囲で、早期に不安を取り除き、コツコツと安心して取り組ませ、学んだ実感を感じて欲しいと願っている。そして、このアンケートの先輩からの生の声を、次の学生に役立てたい。

#### 参考文献

- (1) 木村修平・近藤雪絵：“パソコンが使えない大学生”の実態に迫る—立命館大学6 学部の横断調査に基づいて—, 2017 PC Conference, 279-282(2017).
- (2) 広畑千春：“就活、卒論の“敵”はPC スマホ世代「ローマ字変換に頭使う」”, <https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/201801/0010942002.shtml>, 神戸新聞NEXT, 2018.1.30
- (3) 児島 完二：“大学初年次におけるタイピング能力の現状— ネット世代への情報リテラシー教育の再考 —”, 2014 PC Conference, pp.94-97(2014).
- (4) 文部科学省：“情報活用能力調査 (高等学校) 報告書”, [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1381046.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1381046.htm), pp.54-55(2017)
- (5) 布施雅彦：“福島高専における1年生へのタッチタイピング指導における取り組みと課題”, 2017 PC Conference, 111-112(2017).
- (6) 布施雅彦：“福島高専の情報基礎科目におけるタッチタイピング学習での学生の傾向について”, 情報教育, Vol.1, pp. 39-43(2019).